

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 新島学園中学校・高等学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 379 - 0116

群馬県安中市安中 3702

E-mail office@mail.neesima.ac.jp

Website http://www.neesima.ac.jp

幼児児童生徒数 男子 581 名 女子 678 名 合計 1259 名

幼児・児童・生徒の年齢 12 歳 ~ 18 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、キリスト教精神を教育の基としており、ESD の実践を通して「良心の育成」を目標としている。

具体的には、①「他人との関係性」、②「社会との関係性」、③「自然環境との関係性」に係わる学習を行った。

### ①他人との関係性に係わる活動

聖歌隊、インターアクトクラブを中心に老人ホームの慰問活動を行った。近隣の施設を訪問し、音楽演奏などを通じて交流を図った。(通年)

総合学習の授業で「国際理解」を実施。(中学 2 年 1 時間/週) また、課外活動として「国際理解教室」を実施。(中学 3 年 ~ 高校 2 年) 国際問題に対する理解を深め、英語でのプレゼンテーションに挑戦するなどコミュニケーション力の育成に努めた。海外の留学生を受け入れることで互いの文化や価値観を学び合うなど、他人との関係性に係わる活動を行った。

## ②社会との関係性に係わる活動

2月にフィリピンで歯科医療ボランティアを行っている団体の行事に参加しての支援活動を行った。また、8月にはアジア学院でのボランティア・交流を行った。

また高校2年生では、平和学習の一環として長崎方面へ修学旅行を実施した。平和公園、平和祈念像、原爆落下中心地、原爆資料館を見学後、被爆体験者に講話をしていただくことで、平和の在り方について考えを深めた。昨年度までは沖縄での研修旅行を実施していたが、学校全体で検討し、今年度から九州研修旅行へ変更。平和学習の見直しを行った。

その他、あしなが育英会募金活動への参加や清掃活動を通じて、社会との関係性に係わる活動を行った。

## ③自然との関係性に係わる活動

エコキャップ回収運動や農業体験教室を通じて、自然との関係性に係わる活動を行った。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

学校のプロモーションビデオ 他
-----------------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

中学1年生での総合学習（環境）、中学2年生での総合学習（国際）を週に1時間行っている。一部の生徒だけではなく、全体で環境・貧困・人権・平和・開発などの国際問題について考える時間を設けている。特に講演会を定期的に行うことで、生徒自身が課題を把握し、生活に結びつけられるような投げかけを行っている。

課外学習の「国際理解教室」では、年度の最後に発表会を行うことでその成果を全体で共有できるようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

インターアクト部の活動によって、学年・学部を超えた取り組みを行っている。ボランティア活動や外部交流には、高校生だけではなく中学生も参加させることで、様々な問題についての早期からの意識付けを行っている。また学園祭では障害者支援施設の方が同じブースで販売活動を行うなど、外部との交流が多くあるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクールとしての活動について、内部・外部ともに現段階では評価がしきれていない。今後、活動報告を教員内だけではなく、生徒や保護者、地域へも発信を行っていきたいと考える。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

年3回発行される学園だよりでは、校長によって様々な取り組みについての成果や課題が述べられている。それにより、在学生だけではなく地域の方々やOB・OGも学校の現状について知ることが出来ている。「新島ファミリー」としての一体感が生まれ、多くの視点で物事を考えることができています。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

教員は各種研修に参加し、ESDへの理解を図っている。生徒はフィリピン医療ボランティアやアジア学院との交流、大学や企業を学校に招いた活動を通じて、広いネットワークを形成している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今年度、「ユネスコ子どもキャンプ」のスタッフとして参加した。他県のユネスコ協会に所属するスタッフと知り合い、それぞれの団体の活動を知ることによって新島学園の活動の幅が広がった。また、群馬県の特徴について見つめ直すきっかけにもなった。奈良や名古屋、和歌山のユネスコ協会では独自の取り組みが多くある。新島学園もユネスコスクールとして、学内にとどまらない活動が必要であると感じる。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

勤労を尊び、天然資源の利用を学ぶ」と新島学園の教育 5 原則にある。開校間もない頃の「天の与えられた資源を勤労により活かす」と行われていた農作業の精神は今でも受け継がれている。今年度、新島学園は70周年を迎えた。それを記念した大豆栽培プロジェクトを実施。栽培を通し日本の発酵文化である醤油や納豆に加工。食文化に触れると共に地域の郷土食づくりへと発展させようという思いで活動を行った。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

前年度実施した総合学習（環境、国際）・老人ホームの慰問・フィリピン歯科医療ボランティア・アジア学院交流・清掃活動・募金活動・エコキャンプ回収運動については来年度も継続する。九州研修旅行は、今年度からの実施であるため、経過観察をしながら子ども達にとってより良い平和学習の在り方を模索していきたい。

また、2017 年度より A0 選抜入試（特色入試）を実施し、特色ある生徒の確保につとめた。入学する生徒に向けて、今まで以上にボランティア活動や体験学習への参加を呼びかけていきたい。